第７回「伊豆・伊東温泉に吹矢の宿「ほっと」開設、全国の仲間集う」

・「客の好むものを売るな。客のためになるものを売れ」
・「商売は世のため人のための奉仕として利益はその当然の報酬なり」
　これらは経営の神様とされた松下電器（現パナソニック）の松下幸之助の言葉ですが、青柳清も同様の経営理念を持っていました。それはダイセイコーの社員心得の一つ「ただ物を売るのではなくお客様に喜んでいただきたいという溢れ出る思いが大切であり『人のお役に立ちたい』という精神こそ商人（あきんど）の原点である」に表れています。

「人のお役に立ちたい」青柳清の経営理念‼

　青柳清が「スポーツ吹矢」を創始したのも「人のお役に立ちたい」という気持ちからでした。
　「スポーツ吹矢」は老若男女、身体の不自由な人にも楽しめて健康になれます。それだけでなく仲間作りにも役立ち、生き甲斐にもなります。そこで青柳清は、全国の「スポーツ吹矢」の仲間が集い合って一緒に吹矢を楽しめる場所を設けたい、と考えました。そして温泉地に「スポーツ吹矢」の研修所を開設する決断をします。「日本人の温泉好きは文化で、それは今も昔も変わらない。温泉なら健康に良いし、仲間との語らいにも最適だから」と。

源泉かけ流しの温泉で吹矢と交流楽しむ

　青柳清は決断するとすぐ行動に移します。
　まず、青柳清は、日本人が本当に求める温泉は本物の温泉、１００％源泉かけ流しの温泉である、と考えました。１００％源泉かけ流しというのは湧き出た源泉に加水したり循環や濾過したりせず、そのまま湯船に流す温泉です。　日本には４７都道府県に２７，０００か所も源泉がありますが源泉かけ流しの温泉は、その１％に過ぎません。青柳清はその１％の中から２８件の温泉を選び、それを自身ですべて巡り、立地など色々な面を考慮して伝統的な温泉地として日本中に知られる静岡県伊東市の温泉に白羽の矢を立てました。当時

はバブル崩壊後、大企業はコスト削減のため、温泉地に持っていた立派な保養所を売りに出していて、その一つが青柳清の目に叶いました。

伊東温泉の一等地の小高い別荘地に建つ研修所は青柳清によって「吹矢の宿『ほっと』」と名付けられ２００５年５月８日、開所式が行われました。「ほっと」は大きな２階建て、エントランスホールを抜けると吹矢の練習所になる多目的ホール、その奥は広い談話室。和室４部屋、和洋室２部屋、源泉かけ流し１００％の浴室は景色の良い２階で１０人が入れる大浴場と小浴場が並んでいました。中庭は夜にはライトアップされ建物は新築と見紛うほどでした。吹矢練習所となった多目的ホールには４レーン（１０ｍ）の的台が置かれ、昇級・昇段試験なども行われました。

日本有数の保養地で「スポーツ吹矢」はもちろん、温泉も料理も楽しめる「ほっと」は、その後「ほっと倶楽部」（２０１０年５月）、「スポーツ吹矢館」（２０１２年１０月）と名称が変わりましたが、青柳清の期待通り、日本全国から「スポーツ吹矢」の仲間が集う場所となりました。

２０１３年には月平均の利用者が１００人を超えるほどになり、２０１５年２月の閉館まで「スポーツ吹矢」仲間の「聖地」として愛されました。（以下、次号）

「ほっと」開所式で、こけら落としする青柳清
（ダイセイコー社内報２００５年５月号から）